

# 警察のスパイ強要を許すな

日刊  
**動労千葉**

87. 6. 26

No. 2586

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五、六（公衆）〇四七二二七二〇七

## 成田署の刑事が幕張支部組合員に 買収、スパイを強要(6/16)

4・1分割・民営化強行を前後して、警察権力による動労千葉への不当介入、組織破壊の策動があいついでいる。警察による動労千葉組合員宅への聞き込み攻撃を許すな。

「顔つなぎをしたい」とスパイを強要

県警や所轄のデカが動労千葉組合員宅に聞き込みに入るといふ事態がすでにこの間だけでも数十件におよんでいる。「職場の状況をくわしく知りたい」「三里塚など集会には行くのか」「動労千葉は世間では過激派と見られているが、過激派との関係はどうなっているのか」「ぜひ顔つなぎをしたい」等々、組織や職場の実体をさぐり、遠まわしのうちに「動員など参加するな」「動労千葉は過激派だ、動労千葉などやめろ」と圧力をかけ、あわよくば、組合員を警察の協力者「スパイ」にしたてあげられないか、というのである。

実際に六月十六日には、成田署の刑事によって、幕張支部A君に対し、とうてい許すことのできない露骨な買収、スパイ強要が行われている。

「日刊動労千葉や『前進』中核派の機関紙」や組合の情報などあれば、一万円でも二万円でも出すからぜひもらいたい。この話しは二人だけの秘密だ」「こんどはぜひ酒でものみながら話したい・・・」と卑劣にも言い放っているのである。当然A君はこれを拒否し、直ちに動労千葉に連絡し、この卑劣なスパイ強要策動は粉碎された。

### 闘争圧殺のためには 手段選ばぬ警察権力

この間の警察による共産党への組織的な盗聴事件にも見られるとおり、警察は、労働者の闘いをおし潰すためには、自らこそが率先して守るべき法をも平気でふみにじり、手段を選ばないのである。とりわけ、中曽根や警察権力は、国鉄労働運動つぶしの攻撃を、単なる労働問題とは考えていないのである。国鉄問題は、治安弾圧の問題として位置づけているのだ。だからこそ、労働組合など一切認めないような現在の命令と服従の労務政策の発想が生まれてくるのである。

警察権力は、三里塚二期強行と、秋の天皇沖縄訪問へ向けて、全土を貫く戒厳令のような弾圧体制を敷こうとしている。沖縄ではすでに、警察が

労組役員、民主団体、市民運動参加者のリストがつくられ、「ごく普通のごく穏健な労組員まで尾行、はりこみを受けている。これは天皇警備に名をかりた労組つぶしだ」「朝日ジャーナル」といふ事態になり、「過激派が潜伏する」という理由で、サトウキビ畑を刈りとりのお触れが出され、カマヤクワを使うことが禁止されるなど、常軌を逸した弾圧が行われているという。

今後、こうした攻撃が国鉄労働運動破壊や動労千葉つぶしとしても、さらに強まってくることは明らかである。弾圧をはね返す組織体制をつくりあげよう。

### 不当介入があった場合は

警察による聞き込み、不当介入があった場合には、刑事の名前をはっきり確認し、「何も話すことはない」と追い返して下さい。また、必ず、動労千葉本部まで連絡を。

### 駅で頑張る仲間達の

千葉運行部の営業関係では、増収活動の一環として、一人十五万円のノルマが決められ、これを六月から九月の期間中に行えと強制されている。

強制された人達は、どうしようもなく自分で切符などを買って実績を上げ、買った切符は手数料をわざわざ払って払い戻すという奴隷状態が押しつけられているのだ。何も反撃しなければ次から次へと屈服を迫ってくるのが当局のやり方だ。



大網駅で頑張る勝浦支部の塩原君

営業に配転された仲間達の奮闘に答え、総力で反撃に転じよう。